



人とのと…が混ざり合う国

早いもので、新しい年を迎え、あっという間に2月の中旬になっていました。私がヨルダンで過ごす時間も残り1か月です。年末年始は、仲良くしてもらっている人たちと一緒に過ごし、日本の大晦日やお正月とは少し違った思い出ができました。そして、日本で起きた地震のことを報道で知りました。ヨルダンの同僚や友人が「日本の家族や友人は大丈夫なの？」と心配する連絡をしてくれ、気にかけてくれる温かく優しい心がとてもうれしかったです。ただ、今も厳しい状況の中で過ごしていらっしゃると思うと胸が痛みます。どうか穏やかで安心できる時間が過ごせるよう願ってなりません。

さて、今年の目標を「つなぐ」ということに決めました。残りのヨルダンで過ごす時間にさらに人とのつながりを増やし、深め、日本に帰国してもそのつながりを維持し、活かしたいです。大変遅くなりましたが、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

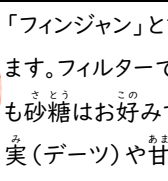
初日の出(ワディラム)



ヨルダンは、人口の約7割以上がパレスチナ人と言われ、難民の人が多く生活する国です(No.33参照)。私にはなかなか見分けがつかせませんが、ヨルダン人の他にパレスチナ人、シリア人、エジプト人、レバノン人、トルコ人などいろいろな国の人が生活しています。そのため、これまでも紹介してきたようにそれぞれの国の食べ物や道具、服、生活習慣や文化、様々な“もの”が混ざり合っています。



例えば、コーヒー(アラビア語ではカフェ/カフワ)でもトルコ式、アラビア式、サウジアラビア式があり、多くの種類が混在しています。これらは日本でよく飲まれるコーヒーとは違った味、香りがするので、一度は試してみたいです。ヨルダンでよく飲まれる3種類について簡単にまとめてみると、このようになります。

呼び方	トルココーヒー	アラビア/アラビックコーヒー	サウジアラビアコーヒー
淹れ方	深煎りしたコーヒー豆を細かく挽いて煮出す。(火にかけたり、熱した砂で温めたりする。) 	焙煎は地域や好みによって異なるものの、一般的に浅煎りしたコーヒー豆にカルダモンなどのスパイスを入れ、煮出す。(「マジュリス」という客間においてコーヒーで客人をもてなす文化は、アラブ首長国連邦、サウジアラビア、オマーン、カタール4か国からの共同申請によって2015年にユネスコ無形文化遺産に登録されています。)	アラビア/アラビックコーヒーの一種。焙煎は地域や好みによって異なるものの、特に赤い実のコーヒーが使われ、そこにカルダモンやサフランなどのスパイスを入れて煮出すため、黄色いのが特徴。 
道具	イブリック/ジャズベ/ブクリジュと呼ばれる持ち手が長めのひしゃく型の小鍋	ダラーと呼ばれるポット	
飲み方	好みで砂糖を入れますが、基本的にエスプレッソのように濃いコーヒーを小さいカップで少しずつ、そして上澄みを飲みます。飲み干した後にコップの底に残ったコーヒー豆で占いもできるんだとか… 	「フィンジャン」と言われる小さいコーヒーカップに注がれます。フィルターで濾されているものが多いです。こちらでも砂糖はお好みですが、砂糖を入れずにナツメヤシの実(デーツ)や甘いお菓子と一緒に飲みます。 	

コーヒーにまつわる「こぼれ話」

アラビックコーヒーはおもてなしのために出されるものの、注がれるコーヒーの量によっては意味が変わるのです。カップの半分くらい注がれると、歓迎の意味になりますが、満杯に注がれると「早く帰ってくれ。」という意味になるのだそう。注がれる量に注目する必要があります…。

そんなヨルダンで生活をするシリア人から聞いたシリアのこと、ヨルダンでの暮らしについて伝えさせてください。なぜ、シリアなのか…個人的なことですが、たまたま日本の文化や日本語が好きだと言うシリア人の女性とその家族に出逢いました。彼らの故郷に何があったのか、ヨルダンへ来て、どのような生活をしているか話をしてくれ、会う回数を重ね、一緒に過ごすうちにもっと彼らのことを知りたいと思うようになりました。ヨルダンにいと、国内の穏やかさについて忘れそうになるのですが、周辺国で起きている戦争や紛争は、故郷を離れた彼らにとっては忘れられないことなのだと考えさせられます。もう少し詳しく、シリアという国がどのような国なのか、故郷を離れざるを得なかった人がいることについて触れさせてください。

「シリア・アラブ共和国」

(お便り内では「シリア」と表します。)

- 面積：18.5 km²
(日本の約半分)
- 人口：2,156万人
(※2022年推定値
CIA the World Factbook)
- 首都：ダマスカス
- 公用語：アラビア語
- 宗教：イスラム教87%
キリスト教10%
その他 3%



外務省HPにも
「アラブの春」
について説明ある
のでご覧ください。



(2022年推定値 CIA the World Factbook)

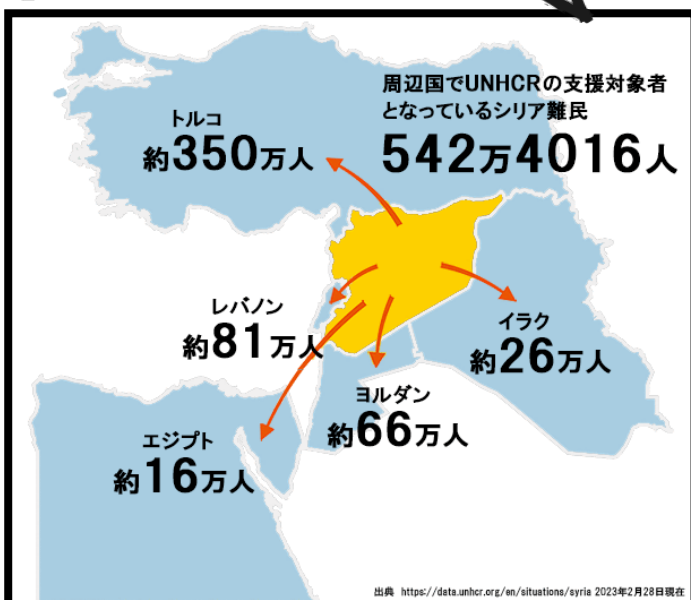
【外務省HPより引用】

内戦前のシリアを知っている彼らは、口をそろえて「シリアはいい国だった。教育も充実していたし、食べ物も文化も素晴らしいものばかりだった。」と言います。そのような素晴らしい国に一体何が起きたのか…それは、争いです。「アラブの春」と呼ばれる出来事をきっかけにして、それまでの独裁政権から脱して民主化を訴えるための運動が始まり、内戦が起きたのです。

「アラブの春」とは？

2010年の12月から2011年の春にかけて、北アフリカや中東のアラブ諸国で巻き起こった民主化運動の大きな流れをたどっている言葉。北アフリカ・中東のイスラム諸国では、国王や強力な指導者・大統領による政治が行われてきた。いずれの国も政治的には安定していたが、長期政権による政治的な腐敗、人権の抑圧、富の集中による貧富の格差の拡大などによって民衆の不満が蓄積していた。2010年12月、チュニジアで失業中の若者の抗議の自殺をきっかけに民衆の不満が爆発、大きな抗議デモ、民主化運動に発展し、23年にわたり政権を維持してきたベン＝アリー大統領を亡命に追いこんだ（ジャスミン革命）。この流れは同じような政治状況をかかえる周辺のアラブ諸国につぎつぎと飛び火し、2011年2月にエジプトのムバラク大統領の退陣、ヨルダンのリファイー内閣総辞職、そしてリビアのカダフィ政権の崩壊と、民衆による運動が政権を打倒した。時期を同じくして、アルジェリア、イエメン、サウジアラビア、オマーン、バーレーン、シリア、クウェート各国でも民衆の抗議活動が展開され、政権による妥協案が示された国、いまだに強行に民衆の抑圧を続けている国などもあり、政治的に不安定な状態におちいつている。(「学研キッズネット」HPより引用)

この内戦により、たくさんの方が難民となってしまったのです。シリアに留まった人たちは国内の経済の低迷により、物価は上昇し、生活することが難しくなっています。また、国外に逃亡した人々も働くためにも許可が必要で合ったり、支援される限られた食料しかなかったり、過酷な生活を送っています。



出典: <https://data.unhcr.org/en/situations/syria> 2023年2月28日現在

ヨルダン国内にはシリア難民の人たちが生活するキャンプがあり、多くのシリア人が生活をしています。(No.39参照) 彼らの暮らしについて聞いてみると、医療費や社会保障の制度など、様々な部分でヨルダン人とは異なるのです。

と、今回はここまで…次回に続きます!

